

## 第 5 回 下野市総合計画審議会会議録

日 時	平成 24 年 1 月 13 日（金） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
場 所	下野市保健福祉センターゆうゆう館会議室
出席委員	中村祐司委員、石田陽一委員、小谷野晴夫委員、吉田聡委員、川口桂子委員、高田憲一委員、柴山征吉委員、尾花重吉委員、海老原新子委員、加藤芳江委員、鈴木祐孝委員、三宅義彦委員、田村友輝委員、江田小百合委員、大貫達雄委員、小島恒夫委員、照井一富委員、大塚博委員
欠席委員	本橋利男委員、永山茂夫委員
出席者	板橋昭二副市長、古口紀夫教育長、川端昇総合政策部長、篠崎雅晴総務部長、伊沢和男市民生活部長、田中武健康福祉部長、落合亮夫産業振興部長、大門利雄建設水道部長、高橋敏雄会計管理者、鶴見忠造教育次長
事務局	上野清一総合政策課長、星野登課長補佐、金田欣明主幹、古口明宏副主幹、篠原恵主査、古口貴之主査
傍聴者	なし

### ○次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

### ○会長あいさつ

（事務局） 中村会長が道路事情で遅れるので、その間、職務代理の鈴木委員に議事進行をお願いする。

（鈴木委員） 今回で第 5 回の審議会となる。重点戦略が本日の中心になると思われるので、委員から積極的なご意見をもらえればと考えている。

### ○議事

（鈴木委員） 会議録への署名については、今回は柴山委員と海老原委員にお願いしたい。また、本日の会は公開とする。

#### (1) 前回会議録の確認について

（事務局） 第 4 回会議録について説明（資料 1）

- ・委員の皆様からの修正点はなし。
- ・委員の皆様からご意見・ご指摘のあった点については、このあとの 3 次素案で順次説明したいと考えている。

(2) 後期基本計画策定について

(鈴木委員) 「I 序論」について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 「I 序論」について説明 (資料 2)

・3 ページの基本構想の体系図にしもつけ重点戦略のイメージを追加で図示した。

・4 ページに満足度の目標値設定のルールを追加記載した。

・全てのグラフの中に具体的な数値を記載した。

・9 ページの【人口・世帯】の項目に「世帯数と世帯人員」のグラフを追加した。

・10 ページに新たに【就業人口】の項目を設けて記載した。

・13 ページの農業の現状についての記載に「TPP」についての一文を追記した。

・14 ページに医療の現状について追加記載した。

(鈴木委員) 序論について意見が無ければ、「II しもつけ重点戦略」について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 「II しもつけ重点戦略」について説明 (資料 2)

・重点戦略については、初めて審議いただく部分になるのでよろしくお願ひしたい。

・前回審議会で、人口増を目指す積極的な記載が不足しているとのこと指摘をいただき、17 ページに人口増に向けた姿勢を追加記載した。

・重点戦略 1 から 3 に具体的な事業を記載した。重点戦略に挙げられた事業は、主に新規事業を中心に庁内で検討・協議し抽出した。

(鈴木委員) 大事なところなので 1 つずつ進めていきたい。重点戦略 1 でご意見をもらいたい。

(川口委員) 語句を統一してほしい。「安全・安心」で統一してほしい。

(事務局) 「安全・安心」で統一したい。

(鈴木委員) 次に重点戦略 2 についてご意見をもらいたい。

(照井委員) 重点戦略 1 から 3 は枝葉の話に感じる。「子どもたちがいつまでも住み続けたいと思えるまちづくり」とあるが、下野市にいつまでも住み続けたいと思えるようなまちづくりが欠けているとしか思えない。優秀な高校生は、東京へ流出している。子どもたちは、今の下野市にそのまま住みたいと思っているのだろうか。行政は子どもに聞いているのか。皆さんがどのように考えているのかお聞きしたい。

(教育長) 非常に重要なご意見である。子どもたちの実情調査はしているが、直接総合計画に関わることはしていない。間接的には、ふるさと学習を重視して取り組んでいる。この取組が、子どもたちの帰属意識につながるものと考えている。また、文化祭などで、子どもたちに「10 年後の私、下野市」を描いてもらい共有している。

(鈴木委員) 環境基本計画では、小中学生を対象にアンケートを実施している。

- (照井委員) 小中高生はそれぞれ考え方が違っている。高校生になると自我が出てくる。高校生の意見はどうか。
- (川口委員) グリーンタウンの多くの子どもたちは東京などに行っており、当初に比べ、街は高齢化してきている状況である。しかし、都内で同窓会などを実施しており、市外に出たことにより、地元の良さを感じているようである。市外に出たからといって、郷土を愛す意識が少ないわけではないことを付け加えたい。成人の意見を聞くのであれば、成人式などで聞くこともできるのではないかと。
- (高田委員) 6項目からなっているが、説明の中で、強みが発揮されるように感じない。強みがある地域をアピールした活動が必要では。
- (産業振興部長) 30ページのシティ・セールスの推進の中でうたっている。
- (総合政策部長) 重点戦略1から3全てがシティ・セールスにつながっていることをご理解を願いたい。
- (三宅委員) 重点戦略で人口増をうたうのは前向きで良いが、戦略として具体的に表れていない。人口減社会の中で、バランスが良いということだけで良いのか。どのような年齢層、産業構造を下野市にもってくるのか。増加している所は何かしら飛び抜けている。戦略なしでは説得性はない。また、子どもたちの夢をかなえてくれる地域であって欲しい。他の地域の子どもたちを受け入れる体制が必要だと思う。何かに飛び抜けていないと、魅力を感じてもらえない。
- (照井委員) 三宅委員と同じ意見である。第6回審議会の終息に向け、どのようにしていこうかという感じしかない。具体的な戦略を作り上げる場は行政だけで作るのか、市民の意見を反映させているのか。
- (総合政策部長) 人口増について説明する。対策として区画整理を実施している。完成することにより少しずつ増加すると考える。下野市の利便性が強みになっており、今回の総合計画でアピールしたい。総合計画は大きな方向性を示すもので個々のものは実施計画による。パブリックコメントを得て実施計画に結び付けたい。
- (石田委員) 総合計画は4年間の舵取りをどのようにしていくか、という感じに見える。三宅委員も言うように、今後、下野市が伸びていくには、思い切った施策が必要ではないか。調整区域の見直しなどによる住環境の見直しや、自治医大周辺の宅地造成を民間に委託し、1区画100坪にするなど、極端な見直しが必要では。
- (吉田委員) 重点戦略2に「体育・文化芸術施設、地域交流センター等の整備」、重点戦略3に「三山王地区私有地の整備」とあるが、この項目に関しては何も決まっていない状況にあると思える。そのような中で、この重点戦略に載せるべきではないと考える。63ページのアンケートの中で、行政施策の不満に商業、工業の振興があることから、29ページに記載されている企業立地の促進を載せるべきだと思う。これにより、雇用の促進を図

り、人口増につながると考える。

- (副市長) この重点戦略には、トップの強い意向がある。企業促進は是非載せたいところではあるが、県でも苦戦している。財政も関係することであり、出来るものと出来ないものをハッキリして行う方針である。
- (高田委員) 下野市は災害が少ないということを強調すべき。
- (総合政策部長) 重点戦略の中に、一文を追加したいと考えている。
- (小島委員) 重点戦略2の「市民活動支援制度の導入」の内容が見えにくい。
- (総合政策部長) これは、市民活動をしている団体への助成である。
- (小島委員) 地域活性化とは個人の活性化だと考えている。下野市では自治医大と道の駅が重要だと思うが、計画の中であまり言及されていない。副市長が言われたとおり、道の駅はすごいので良い物をほめて伸ばすべき。
- (鈴木委員) では、「Ⅲ施策の概要」について事務局より説明をお願いします。
- (事務局) 「Ⅲ施策の概要」について説明(資料2)
- ・全体では、新規事業と重点戦略の事業を目立つように強調し、名称から内容が分かりにくい事業について括弧書きで補足した。
  - ・25 ページに国内交流協会会員数と国際交流協会会員数を指標として追加した。
  - ・29 ページの指標を商工会の会員数から事業所数に変更した。
  - ・39 ページの福祉の分野に日中一次支援事業、子育て相談実施場所、地域ふれあいサロンの設置数、老人クラブ数と指標を4つ追加した。
  - ・41 ページで「高齢者の生活支援の充実」と同じ事業名だったものを、事業内容のくくり方を変えて、「高齢者の生活支援の充実」と「高齢者の介護予防の充実」に分けた。
  - ・51 ページの指標の目標値(H27)を13,000人から14,000人に変更した。
- (大塚委員) 41 ページで、「高齢者の生活支援の充実」だけでなく「高齢者の介護予防の充実」も重点戦略に入れてほしい。
- (健康福祉部長) どちらも重視して進めることに変わりはないが、重点はある程度しぼらなければならない。
- (照井委員) 「市民活動支援制度の導入」について、詳細は決まっているのか。
- (総合政策部長) 詳細は未定であるので、早々に進めていきたい。
- (小谷野委員) 34 ページの「デマンドバスの運行」は重点戦略になっているが、これは昨年11月から既に運行されている。なぜ重点戦略なのか。
- (総合政策部長) 高齢化社会では公共交通の充実が必要であり、重点戦略に入れたのは、これをさらに充実したいという意味である。
- (小谷野委員) 現在3台運行しているバスの本数を増やすということか。
- (市民生活部長) デマンドバスは運行してからまだ2か月という状況で、様々な意見が寄せられている。今年度限り有効なバスのお試し券を高齢者の方へお配りした。現在600人超の登録者だが、事業計画どおりの1,000人となるよう目指している段階にあるので、改良・工夫を図っていきたい。

- (大貫委員) 35 ページの公園・緑地の部分で、放射性物質の問題があることについて言及すべきと考える。
- (市民生活部長) 総合計画ではなく、別途策定する環境基本計画の方で言及してある。
- (柴山委員) 28 ページの「6 次産業化の推進」と「石橋南部ほ場整備地区内出荷施設の建設」は、事業として関わりがあるのか。また、農業生産基盤の整備の見通しはどうか。
- (産業振興部長) 集荷施設は 6 次産業化も含めて整備したいと考えているが、具体的な内容はこれから検討し、後期基本計画期間中にはつくれるかどうかも含めて結論を出したい。また、農業生産基盤の整備については、現在実施中のものと再整備のものが終わると、9 割方完了となる。
- (中村会長) 到着が遅れて申し訳ない。以降の議事進行を務めさせていただく。
- (川口委員) 27 ページで耕作放棄地のことに触れているが、栃木県の農大で農業未来塾を行うなど、農地を使いたいという需要はある。これらをうまく繋げられないか。
- (産業振興部長) 元々農地を持っていなかった方に参加してもらえればとは考えているが、実際の耕作放棄地は立地の関係から法律上の課題が多く難しい。
- (鈴木委員) 21 ページで太陽光発電の話があるが、ほ場整備した河川で小水力発電などはできないものか。
- (産業振興部長) 以前、議会からも質問があって研究したのだが、下野市の平坦な地形では、発電に必要な落差がないため難しい。
- (中村会長) 委員の皆様から寄せられたご意見は、私の方で事務局と調整させていただきたい。
- (事務局) 「附属資料」について説明（資料 2）  
・62 から 63 ページに、市民意識調査結果とまちづくりへの意見募集結果の概要を、68 から 70 ページに総合計画市民懇話会の概要を掲載した。  
・74 ページには、次回提出される答申書が記載される。
- (鈴木委員) 57 ページにある財政のすがたについて、前に意見書にも記したが、これを見ただけでは市民が分かりにくいと思うので、もう少し説明がほしい。また、裏表紙に「総合政策課」の名前があるが、懇話会や審議会、庁内組織なども参画していることを明記すべきだと思う。
- (総務部長) 昨年度、市の財政健全化計画を策定したところであり、それを要約した内容を加えたい。
- (総合政策部長) 総合計画の策定に参画した組織については、一言盛り込む方向で検討したい。

## ○その他

- (中村会長) 答申書については、私の方で書かせていただきたいと考えている。次回の審議会で、報告という形で皆様にお示しすることとしたい。
- (事務局) 「2 次素案に関する意見及び対応」について説明（資料 3）

・1 ページNo.1 から 3 と 5、6 について、3 次素案で文字の強調など対応している。

・No.4 について、育児に関する相談件数が増えていることもあるが、窓口対応等の中で、直接感じ取った現状を記述している。

・No.7 について、「ファミリエ下野教育運動」によりあいさつ運動を推進していくといており、注釈も加えた。

・No.9 について、「ひとり 1 スポーツ」は下野市教育計画に位置付け推進しているが、基本方針にも加筆した。

・2 ページNo.13 の畑地の具体的施策事業について、現在整備計画はないが、市民要望等を踏まえて施策を進めたい。

・3 ページNo.17、18 について、「ファミリー・サポート・センター」の注釈を加えた。

・4 ページのNo.24 について、ご意見のとおり「斎場の市内統一化の推進」と修正した。

・No.29 について、「自治基本条例の制定」は平成 24・25 年度の 2 か年計画で進め、「市民活動支援制度」は平成 24 年度運用予定である。

・5 ページNo.30 について、「市民からの意見聴取」、「市民への議会活動報告義務」など市議会で調査研究を行っている。

(中村会長) 今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。

(事務局) 次回、最後の審議会は 2 月 7 日火曜日の午前 9 時半から、本会場で開催する。内容は、審議会から市長への答申と、委員と市長の意見交換を予定している。その翌日から 1 か月間パブリックコメントを行う。なお、総合計画についての市民説明会は、2 月 19 日日曜日の午前 10 時からと、2 月 20 日月曜日の午後 7 時からの 2 回、実施する予定でいる。

(副市長) 中村会長をはじめ、委員の皆様には、昨年 7 月から本日まで、計 5 回にわたり、総合計画・後期基本計画策定に熱心にご意見を頂戴し、おかげさまで、市長に答申する計画案も無事完成しようとしており、庁内策定委員会を代表して、厚くお礼を申し上げます。

下野市は、先の 1 月 10 日をもって 7 歳の誕生日を迎えた。この後期基本計画は、24 年度から合併特例期限が終了する 27 年度までの下野市のまちづくりの方向性や施策を示した、市政運営の羅針盤ともいべき計画である。

現在、日本は、今年の 3 月 11 日以降、大地震、大津波、原発事故という「3 重の苦難」に加え、歴史的な円高や慢性デフレ、1,000 兆円を超える国家債務・少子高齢化など、様々な課題を抱えており、また、世界に目を向ければ、ギリシャ債務問題に端を発したユーロ危機は深刻な事態となっており、新興国も含め世界経済が減速に向かうという大変厳しい情勢にある。

このように、「内憂外患」ともいべき国難の中にあるが、基礎自治体で

ある下野市の使命は、市民の日々の暮らしを守り、市民のきずな・交流を大切に、豊かな地域資源を活用しながら着実にまちづくりを進めていくことだと考えている。そういった中で、今回、市長の発案により「しもつけ重点戦略」を掲げた。

委員の皆様から頂いた貴重なご意見により、「下野市らしさ」を目指した将来の展望が開けるような計画になったのではないかと考えている。

今後は、計画に位置付けられた各種施策・事業が画餅にならないよう着実に推進するため、財政規律を重んじた市政運営と行政改革に取り組み、下野市の将来像「思いやりと交流で創る新生文化都市」の実現に向けて、努力をしていきたいと考えている。

委員の皆様には、今後とも、市政に対して、ご意見、ご鞭権をお願いし、感謝申し上げます。

以上

会議の経過を記載し、相違がないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

会 長

署名委員

署名委員